日本ゼオン　総合開発センター

総合開発センターについて

【主な機能】
1959 年に設立。日本ゼオンの研究開発を担っています。川崎を中心に、高岡、水島、徳山の各工場にも研究所を設置しています。研究所と工場が隣接することで、研究から生産まで総合的に対応できます。

研究所正面

事業所の方針（センター長より）

「サステナビリティ基本方針」に則り、研究所員全員が「持続可能な地球」と「安心で快適なくらし」の実現を目指し、研究開発を行っています。また、研究活動全般を通じて関連法令を遵守し、事故のない安全で活気に満ちた研究所の実現を目指します。そのために、2022 年度は事業所の環境安全方針として、「無事故無災害を実現するために、あいさつから始めよう。」、「危険に気づく力を高め、自分の身も一緒に働く仲間の身も守っていこう。」、「研究開発で CO_2 削減に貢献しよう。」を掲げ、全員で取り組みます。

研究開発本部長
総合開発センター長
豊嶋　哲也

安全への取り組み

【方針】
「安全は存在しない。常に存在するのは危険である。」という教えのもと、安全な職場環境と無事故無災害の実現を目指します。

【具体的な取り組み】
・所員全員に対する安全衛生管理の意識付けと、自主活動の推進
・所内ルールの見直しと、皆が納得できるルールづくり
・新しい実験を安全に実施するための実験力の強化
・事故事例教育
・毎月 25 日の研究所長等の安全講話

環境負荷削減の取り組み

【方針】
環境負荷低減活動の推進と産業廃棄物ゼロエミッションの維持、CO_2 排出量削減に取り組みます。
【具体的な取り組み】
・排ガス除去装置による大気汚染物質の除去
・化学物質含有液体の適切な廃棄処理

・分別廃棄の徹底による直接埋め立て処分量ゼロの継続
・CO_2 排出量削減に関する啓蒙
・研究テーマとしてカーボンニュートラルに取り組む

社員とともに

【方針】
やる気がある者を積極的に支援する

【具体的な取り組み】
・オンライン語学教育、専門技術研修への派遣
・女性リーダー育成教育
・階層別教育
・共通職能技能教育
・職種別専門教育
・指導員による新入社員へのマンツーマン教育
・ダイバーシティ＆インクルージョン研修
・全体集会での月間 MVP 賞表彰

オンライン全体集会

談話室企画

地域との共生

【具体的な取り組み】

1．ボランティア活動を通した地域への貢献
・総合開発センター周辺の清掃ボランティア「殿町夜光クリーン大作戦」への参加（年２回）

清掃ボランティア

2．地域との交流
・川崎工場と協力しての、「事業報告および工場見学会」開催
・大分　化学サイエンス教室開催

3．総合開発センター見学およびインターンシップの受け入れ
学生や若手研究者に化学企業の理解を深めてもらうために、見学およびインターンシップを受け入れています。
・見学（半日）：「会社」を知る
・短期インターンシップ（1 週間程度）：「会社および仕事」を知る
・中長期インターンシップ（2～3 ヶ月）：企業の研究開発活動を体験するとともに、知と知の融合によるイノベーションを起こす。

見学会